

甲子川水門 完成イメージ（下流側より）



## 二級河川甲子川筋 甲子川水門土木工事

令和元年9月7日

一日も早い復興を

**KUMAGAI HONMA OZAWA JV**  
— Building The Future



施工者 (株)熊谷組・(株)本間組・(株)小澤組特定共同企業体  
〒026-0004 岩手県釜石市松原町 3-10-22 小澤ビル4F  
TEL: 0193-22-6515  
現場代理人: 江藤宗英 監理技術者: 齊藤輝幸  
主任技術者: 加辺圭太郎、柄内栄光



(株)熊谷組・(株)本間組・(株)小澤組特定共同企業体

## 概要

釜石市は、岩手県の南東部、三陸復興国立公園の中心に位置し、三陸漁場と典型的なリアス式海岸を持つ市です。近代製鉄業発祥の地であり、最盛期の人口は9万人を超えることもありましたが、製鉄所の高炉の休止、東日本大震災によって現在は最盛期の半分以下の約3万7000人となっています。

今回の工事は、釜石市を流れる甲子川の河口部に、釜石湾海岸防潮堤とつながる水門をつくり、津波から人命・財産や種々の産業・経済活動、国土を守ることを目的としています。

工事名	二級河川甲子川筋甲子川水門土木工事		
工事場所	岩手県釜石市嬉石町地内		
発注者	岩手県		
工期	平成26年3月26日～平成32年3月15日(72ヶ月)		
工事概要	水門本体内	T.P.+6.1m	総幅員 120m
	直立防潮堤	T.P.+6.1m	延長 85m (T.P.:東京湾平均海面)

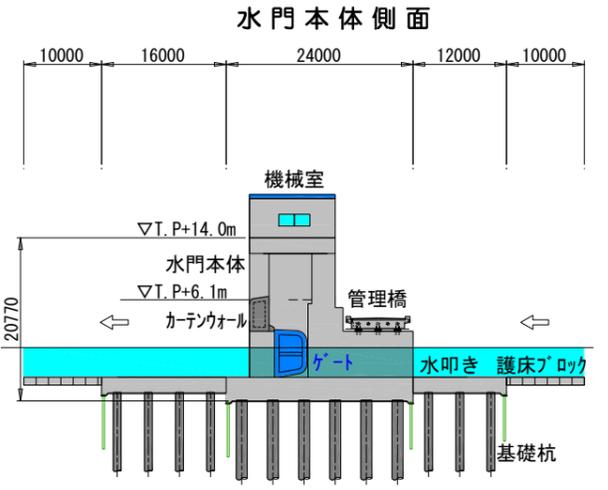


### 甲子川水門について

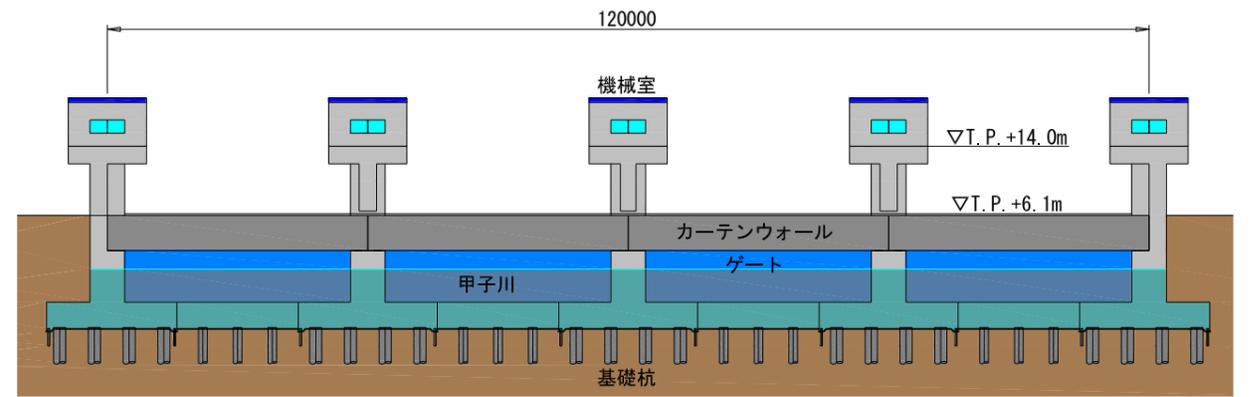
主要構造物である水門本体、並びに水門に接続する防潮堤の高さは、数十年から百数十年に一度の津波を想定して、T.P.+6.1mに設定しています。それをを超える最大クラスの津波が発生した場合でも、住民避難を軸とした土地利用、避難施設、防災施設などを組合せたまちづくり対策（別途工事）がとられています。

## 主要工事数量

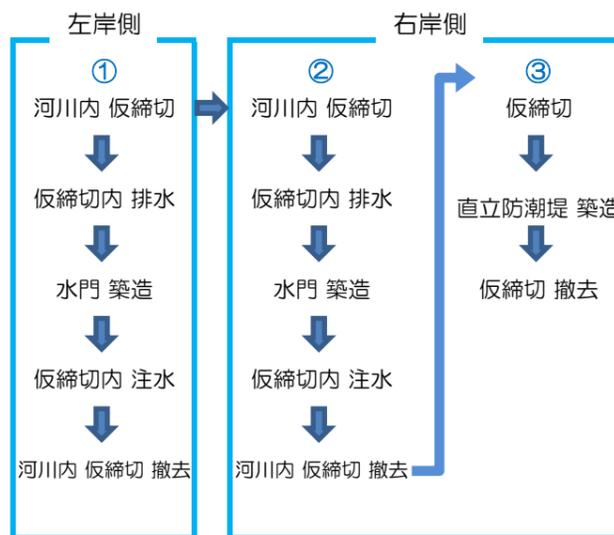
仮締切工	延長1,008m	鋼矢板2,895 t
掘削工	46,900m <sup>3</sup>	
基礎杭(鋼管リル)	φ1400(29.5m~35.5m)	128本
	φ1000(25.5m~35.0m)	225本
基礎杭(PHC杭)	φ600(17.0m)	98本
水門本体内	鉄筋コンクリート	19,736m <sup>3</sup>
PCカーテンウォール工	4径間120m	7ピヤスト
PC管理橋	PC管理橋2径間120m	7ピヤスト
直立防潮堤	φ1500(28.0m~31.0m)	73本 (ジャイロプレス杭)



### 水門本体正面



## 工事の順序



## 平面図

